概　要　報　告

実施期日	令和７年８月４日(月)
部　会　名	小学校　特別の教科　道徳部会

研究主題 カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ 『日常からの積み重ねを意識した単元づくり～目の前の子どもに届ける～　』

提案概要

道徳の学習では、教科書教材だけではなく、自作教材や絵本を活用することで、子どもたちが深く思考し、自分事にできるような教材研究や発問を工夫してきた。また、先人の言葉や書籍本文に出てくる「使えそうな言葉」を書き溜め、子どもの実態や内容項目にあった文章を紹介するなど、子どもたちの日常生活に道徳教育を意識して取り入れるようにしてきた。

日常の取組として「はなちゃんのみそ汁」の中から一部抜粋したブログや手記を、帯時間（計２２回）を使って読んできた。少しずつ内容と感想を共有することで、安武家に起きた事実と関わる人々の思いを子どもたちの体の中に残すようにした。そして道徳の授業として、「慎吾さんから千恵さんへの手紙」で『命はどこにある』の学習に、「はなちゃんから千恵さんへの手紙」で『がんばることの意味』の学習に取り組んだ。

【児童の実態】

児童の実態として、グループ活動では活発な話し合いをしているが、全体の場で意見を出せる子は限られている。「話すこと・聞くこと」の力を高めるためには「伝えたい思いをもつこと」「聞いてもらえる人になること」「聞きたいと思える関係をつくること」が大切だと考える。そのために子どもが安心できる場所づくりや、お互いを大切にする気持ちについて考えさせ、日々の学び、暮らしの中で「今、ここ」を大切にしてほしいと考えた。

【教材選定】

命は自分だけでなく、親からもらったものであるとともに、家族や友達など様々なつながりの中にあることを考えてほしい。また、自分の命も他者の命も大切であることに気付いてほしいと考え、「はなちゃんのみそ汁」「はなちゃん１２歳の台所」という教材を選定した。

【授業実践】

「命はどこにある」の授業では「はなちゃんのみそ汁」を読んできたことについて振り返り、自身の命に対しての見方・考え方を確かめた。その後、主発問として「千恵さんの命はどこにある？」と問い、「命は自分の中だけでなく、関わりの中にもあるかもしれない」という、言葉にならない思いが表れた。そこから、生死にまつわる経験や普段の生活を想起し、他者との関わりで誰かの命をないがしろにしていないか考えさせた。いろいろな人の命は、たくさんの人のつながりの中にあることに気付かせることで、自分が「今ここ」にあり、「今ここ」を大切にする意味について考えさせるようにした。

「がんばることの意味」の授業では、がんばることについて確かめ、がんばることの種類や大きさは人それぞれであり、今の自分と比較ができるように授業を展開した。はなちゃんからの手紙にある「日々の暮らしの中に幸せがある」という言葉は、学習だけでなく普段の生活にもつながる言葉だと考える。自分とはなちゃんを重ねて考えることにより、日常生活と今回の授業がつながったと考える。

【成果】

・絵本は子どもが親しみやすいだけでなく「何か考えさせられる」仕掛けが含まれており、教材化することで多様な見方で話し合うことができた。
・日々の積み重ねや種まきにより、授業と日常がつながり、子どもたちの学習に深まりが見られた。

【課題】

・今回は学年全体で取り組んだためタブレットを使用したが、普段から使用している紙での教材提示の方が子どもたちの心により届いたのではないか。
・過去に実践した教材で、同じ狙いを立てたとしても、目の前の子どもたちによって問いの言葉を変える必要がある。

質疑応答

Q1教材開発と普段の種まきによって、子どもたちにどのような変容が見られたか。

A1積み重ねがあるとないとでは大きく違いがある。２回、３回と考えさせることで深まりが出る。また、教科書にある自然愛護などの教材では実態とかけ離れてしまうこともあるが、絵本などを~~の~~教材として用いることで、子どもたちが教材を身近に感じ、教材に引き込むことができた。教材を身近にすることで、子どもたちが深く考えられたと感じている。

協議の柱及び協議概要

〔協議の柱〕

日常の中に「話したい・聞きたい」を引き出す種をどうまいていますか。

〔協議で話題となったこと〕

・授業外での積み重ねが授業とつながることにより、子どもたちの思考が深まるのではないか。日常から道徳的諸価値について考えさせるには、日々の帯時間などを使って積み重ねることが大切である。

・担任が子どもたちと共に考えたいことについて、日頃からアンテナを張っておくことで日常と授業をつなげることができる。

・一時間の中で完結ではなく、毎日少しずつ読み物を読むことや、小さな幸せを見つける活動とリンクさせ、日々の教育活動と結びつけることは、子どもたちにとって深い学びへとつながる。

・日々の積み重ねは大事だが、普段の生活の中で時間が取れないときには、話し合いのアイスブレイクを５分ほど行うことで子どもたちの楽しい話し合いにつなげるようにしている。

・話し合いの役割は多種多様であり、話し合いの場の持ち方を工夫することで、子どもたちが学習に意欲的に取り組むことができる。

・日々の学習の積み重ねを目に見える形にして残すことは、子どもたち自身が様々なつながりに気付けるようにする仕掛けになる。

・学年が上がるにつれ、話す意識よりも聴く意識が高まるように感じる。生徒の価値観の幅を広げ許容量を増やしてあげることは大切である。教員が生徒と関わる際に、否定する言葉を使わずに積極的に話すことで子どもたちの聴こうとする意識が高まるのではないか。

まとめ概要

「はなちゃんのみそ汁」という話を道徳の「内容項目」と関連付け、一つの単元を作ったが、大切なことは単純に面白い自主教材を持ってきただけではないという点である。

今回の提案授業には大きく３つのポイントがあった。

①カリキュラム・マネジメントを意識した構成

一年間の流れや各教科との関連について考え、カリキュラムに組み込んでおり、それに合わせた朝の時間の帯活動を取り入れ、計画的に進めている。

②日常からの積み重ね（種まき）を意識した取組

学校生活では、日々、道徳教育という種をまき、「特別の教科道徳」を要として学校の教育活動全体を通じ、道徳性を培うことができるように、適切な指導を行うことが大切である。

③子どもの「話したい・聞きたい」につなげるための、教師の関わりや見取り

子どもの主体性を引き出すためには、「今」の子どもたちとの関わりを大切にし、見取りを丁寧に行う必要がある。

「今」の子どもたちの様子と、年間の「カリキュラム」の中で学ばせることが、適切に結びついているか、また、子どもたちの深い学びにつながっているかを、日々の関わりの中でみとっていくことは教師の大きな役割の一つである。

・３つのポイントの①と②のように、計画的に取り組んでいくことと、③のように「今」「目の前の子どもたちの実態」とをつなげていくことが「道徳教育」を充実させていくことにおいて大切である。